

矢作川の水景 2016.4

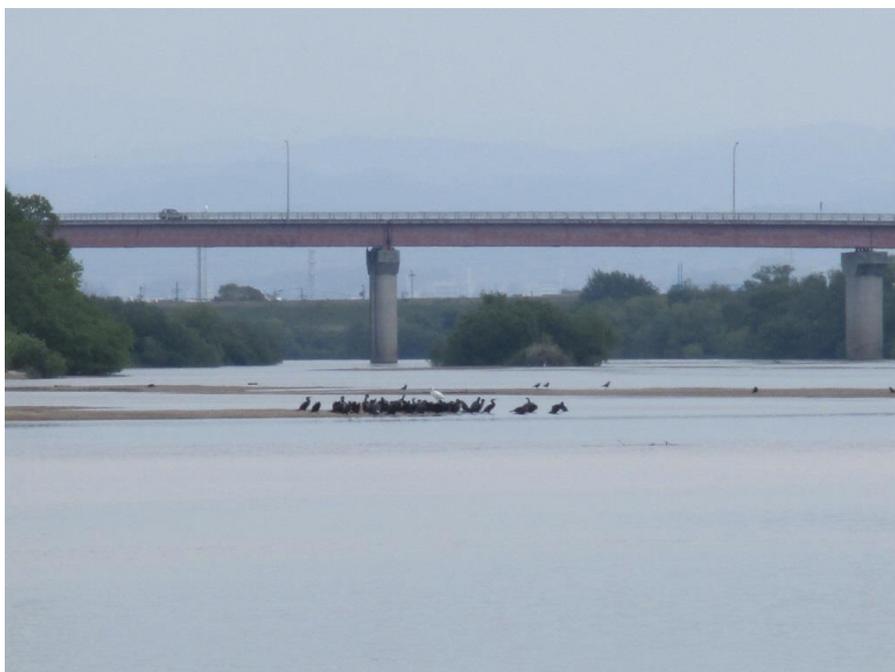


写真1 矢作川下流・春の水面

矢作川は砂河川。農業利水シーズンで水位が低めです。微高の洲が干し出され、その水際にカワウの集団が居ます。遡上中の稚アユを捕食します。カラスもいます。白い鳥はダイサギです。両岸や中洲に新緑ヤナギが連なっています。

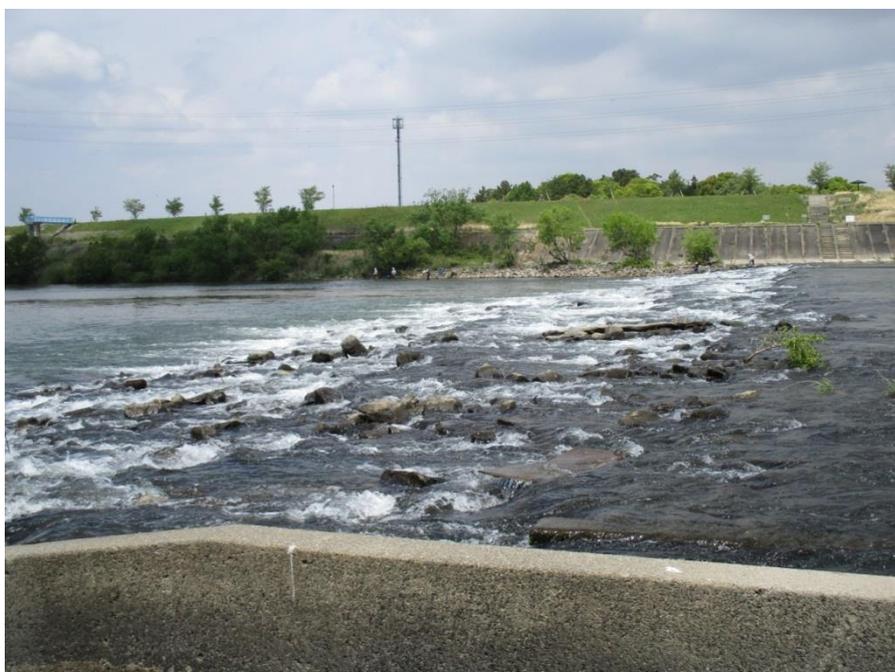


写真2 矢作川下流・春の水面、分派堰の早瀬

水温 15~16℃。今春は、中流のダム魚道で既に 150 万匹の遡上稚アユ(天然)がカウントされたとの報道(地方紙)です。



写真3 分派堰の魚道で稚アユ採り

毎年この時期、漁協の方々が、支流にある越えられない堰の上流側に放流するという地道な作業です。この堰下でもカワウの食害に遭っています。

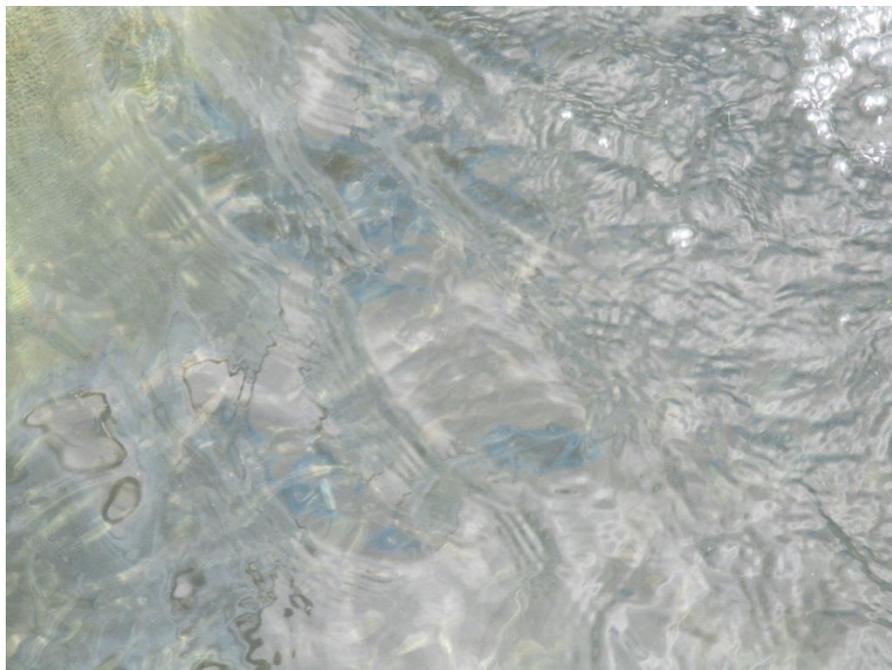


写真4 網枠のなかの稚アユ(天然)

水面の反射で魚影が目視よりはっきりしませんが、全て稚アユです。この後、車で運ばれて行きました。

(2016.4.20AM)



写真5 矢作川中流、明治用水頭首工の魚道を遡上する稚アユ(天然)



写真6 同上、魚道脇の水槽に入った稚アユ

毎年この時期、漁協の方々が魚道を遡上するアユの個体数をカウントしています。(数取りの自動化も行なわれているそうです。)また、ここでも遡上を妨げる堰堤等の上流側に放流する作業が行われています。水槽の稚アユは、車で上流の遡上できない河川に運ばれて行きます。

(写真 5.6: 矢水協提供)